

「共愛12の力」の育成とその成果の可視化

学修成果指標の開発：共愛12の力と共愛コモンルーブリック

■ 学習成果指標の整備（2015年度）

- ディプロマ・ポリシーに基づき、本学学生が身につけるべき力を4軸12の力に整理 ⇒ 「共愛12の力」
- 12の力それぞれの達成度を評価するための「共愛コモンルーブリック」を作成

■ シラバスにおける「12の力」との対応の明示（2017年度～）

- 各科目で、身につけるべき力、伸長が期待できる力を、教員が選択し表示

Table 1. 共愛12の力：名称と定義

識見	共生のための知識	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する知識
	共生のための態度	倫理観、シチズンシップ、学び続けることを尊重する態度
	グローバル・マインド	国際社会と地域社会（群馬）の関わりを捉える視点
自律する力	自己を理解する力	自分の特徴、強みや弱み、成長を把握する力
	自己を制御する力	ストレスに対処し、学びやその他行動を持続させる力
	主体性	自ら課題を見つけ、行動計画を立て、実行していく力
コミュニケーション力	伝え合う力	読み、書き、会話し、表現し、伝える力
	協働する力	チームで物事に取り組む力
	関係を構築する力	他者と円滑な関係を築く力
問題に対応する力	分析し、思考する力	情報を収集・分析し、問題を見つける力／論理的思考力
	構想し、実行する力	問題に対応するためのプランを立て、実行する力
	実践的スキル	現代社会において必要な基礎スキルと専門的スキル

学修成果の可視化①：

「12の力」に基づくカリキュラム検証と改善

■ AP授業アンケートの実施（2015年度～）

- 全科目の最終回に実施
- 当該授業における「12の力」の獲得感および授業外学修時間を調査 ⇒ 全科目の個別データを全教員にフィードバック

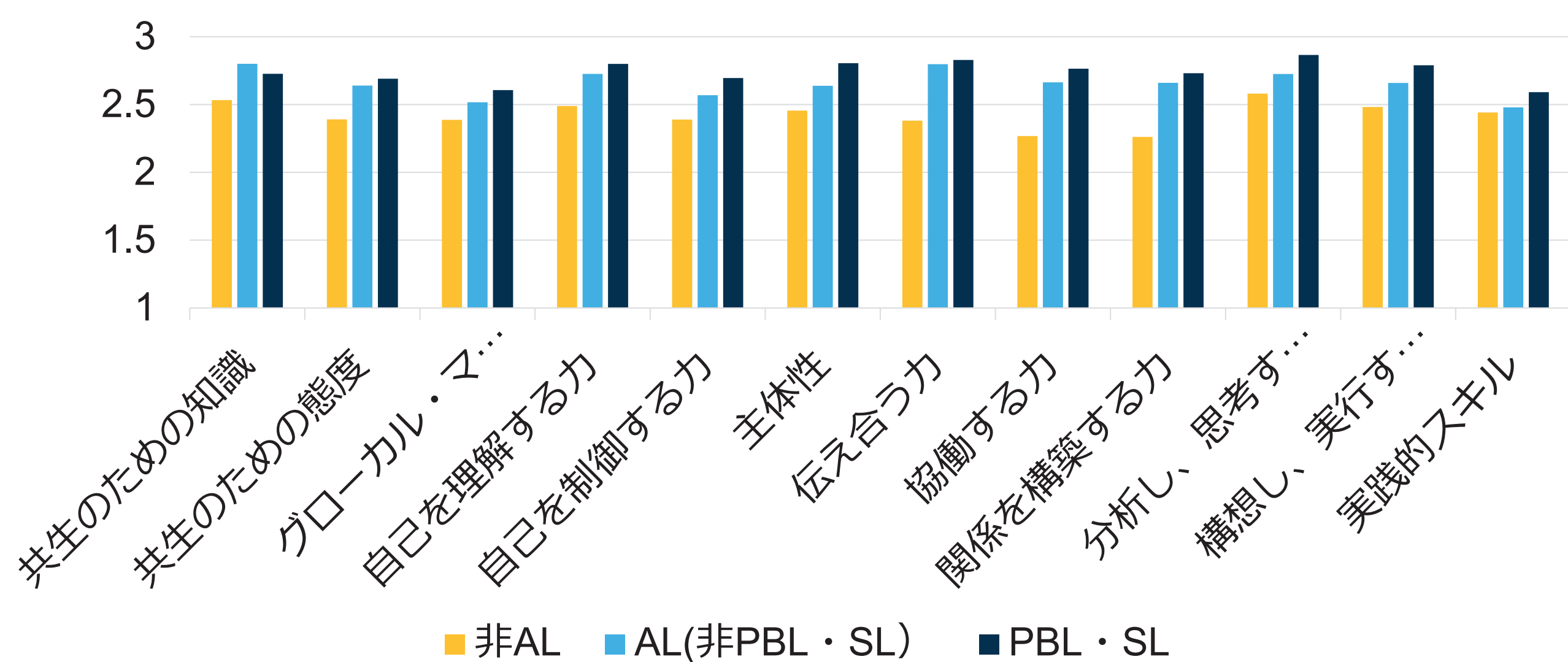


Figure 1. 授業タイプごとの「12の力」獲得感（2018年度調査）

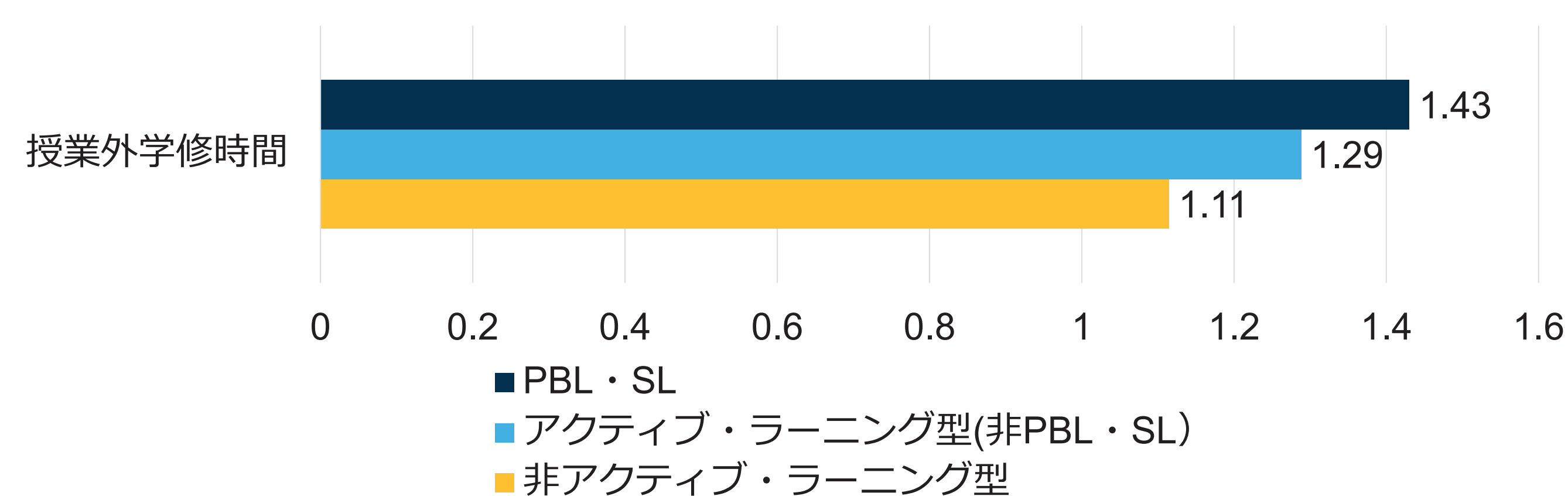


Figure 2. 授業タイプごとの授業外学修時間（2018年度調査）

Table 2. 授業外学修時間の推移

	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (目標)
授業外学修時間 (時間/週)	8.8	9.5	11.7	12.1	15.0	15.0

学修成果の可視化②：

エビデンスベースドの自己評価

■ Kyoai Career Gate (KCG) を用いた自己評価（2015年度～）



- 学修記録をエビデンスとして、コモンルーブリックに基づき「12の力」の自己評価をeポートフォリオ (KCG) 上で実施

⇒ 最重要の学修成果可視化指標

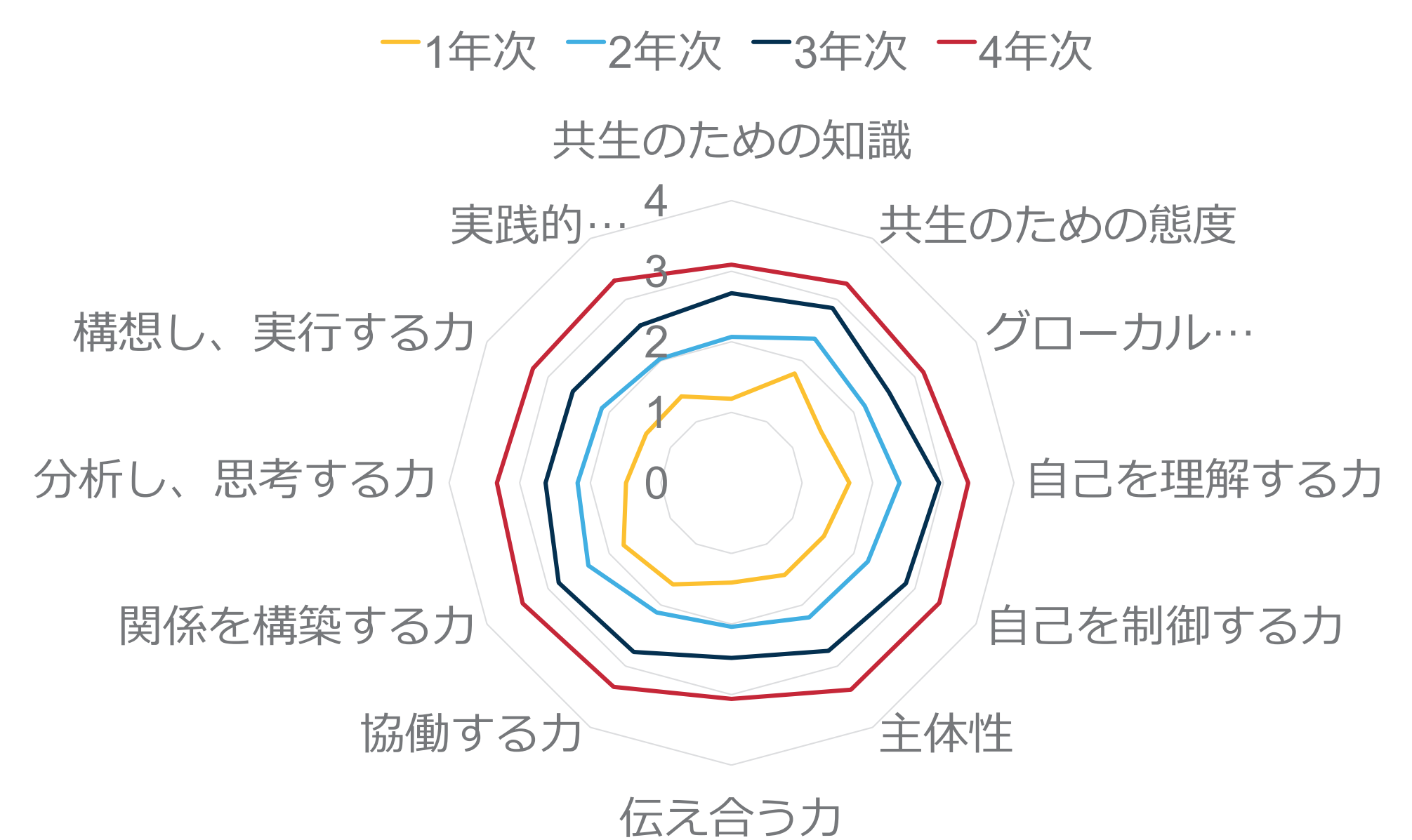
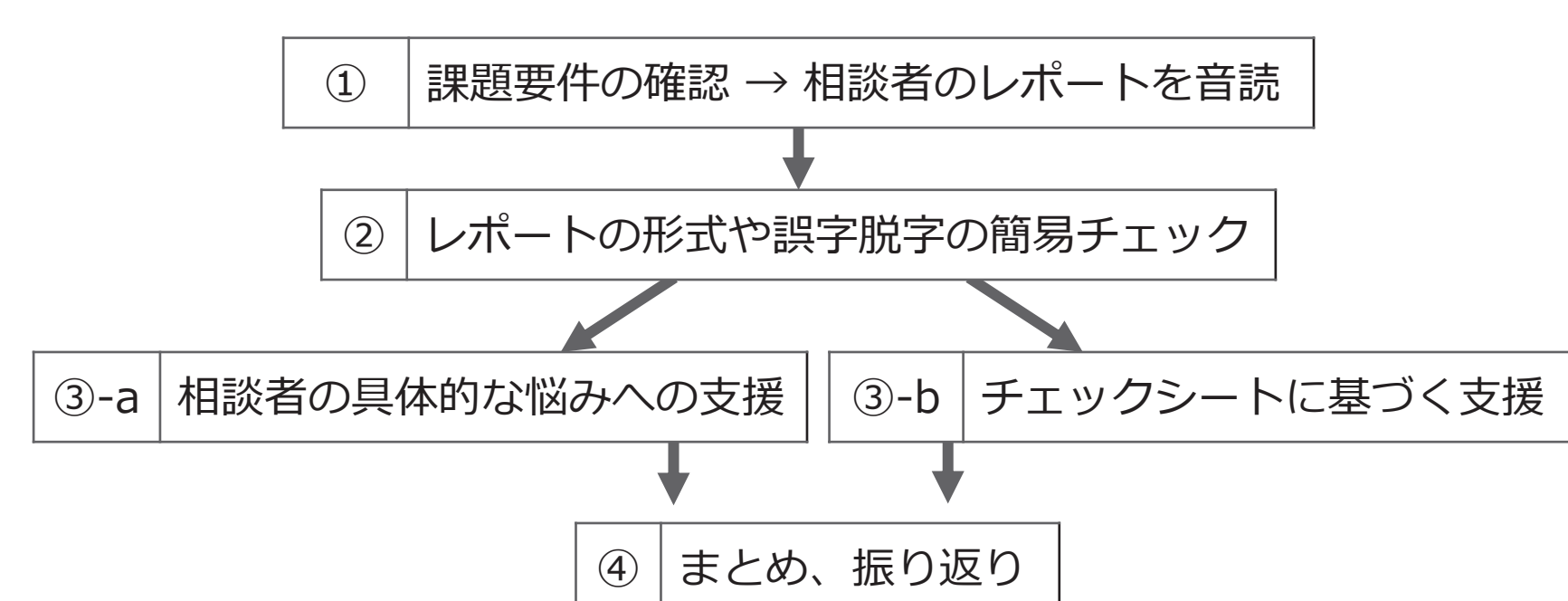


Figure 3. 12の力自己評価（2018年度卒業生の成長）

アクティブラーニングの拡充：ラピタデスクの設置と運営

■ ライティング支援制度「ラピタデスク」（2015年度～）

- 学部3、4年生（教員の推薦による）がチューターとなり、主に1年生のレポート執筆を支援



- 運営（研修を含む）を学生主体の体制に徐々に移行

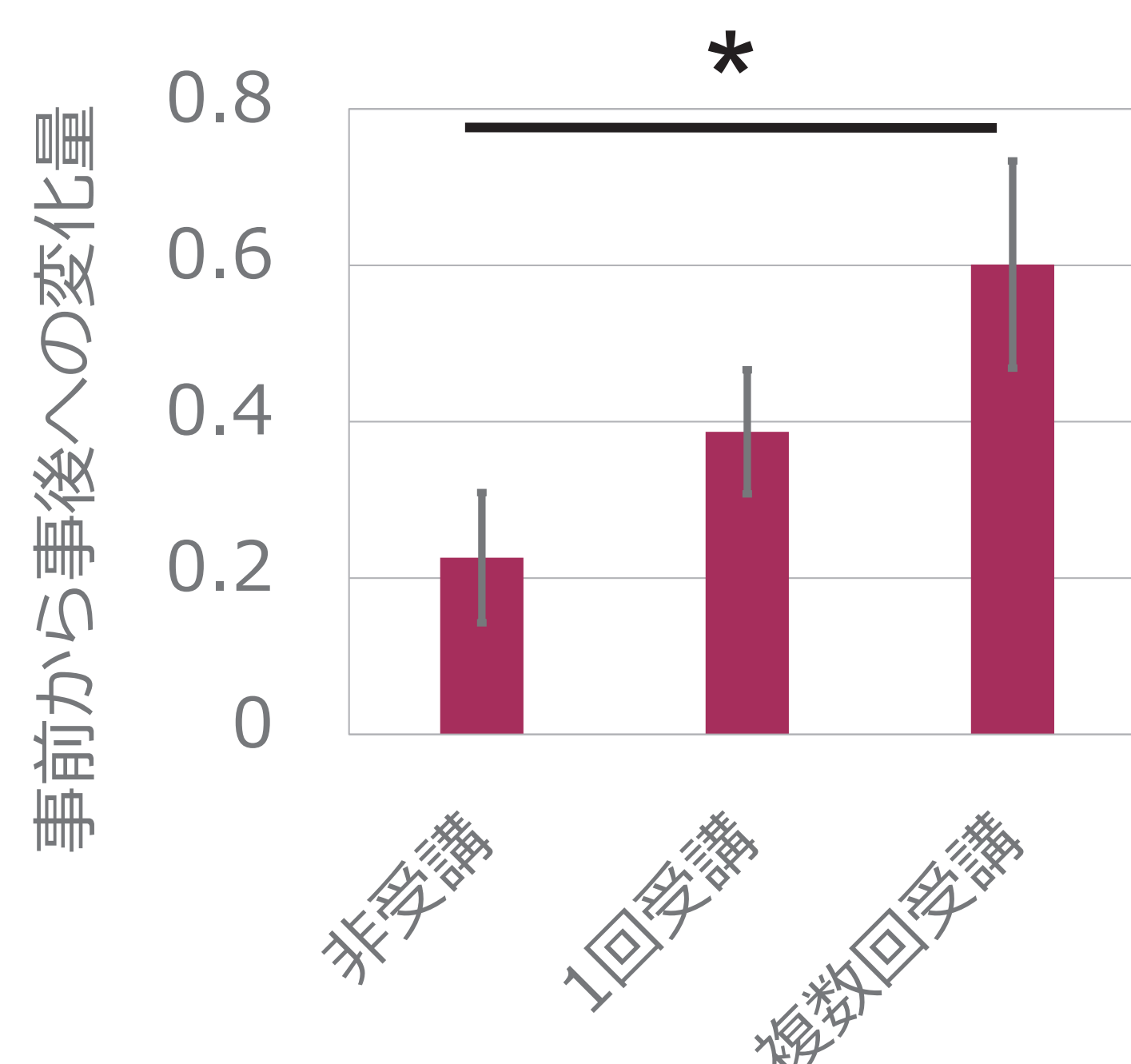


Figure 4. 1年生のレポート執筆に関する知識量の変化（2016年度調査）

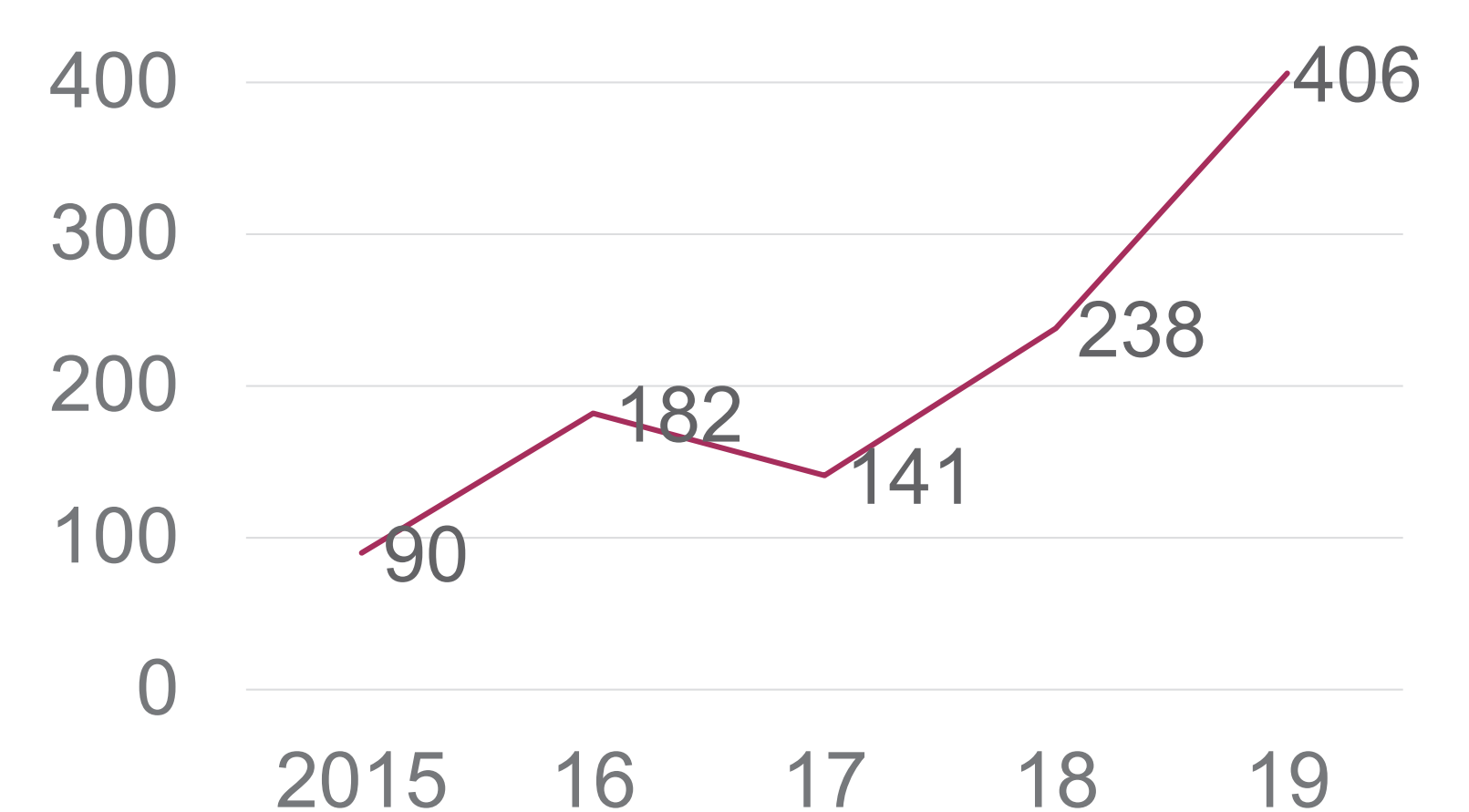


Figure 5. ラピタデスク利用者数の推移